

平成29年 **5**月の大阪森林便り



木の器 長くつきあう 手入れきっちり 使い込むほど味

表面のカビや傷も自分でお手入れできる

- ・温かみのある木のプレートやボウルを、カフェや雑貨屋で目にする機会が増えました。
- ・落としても簡単には割れないので子供にもお勧め。意外に長く使い続けられます。
- ・木は素材によって特徴が違います。ヤマザクラは表面の強度が高く、長持ち。クルミは軽くて丈夫で衝撃に強いです。ケヤキは木目がはっきりしていて水に強いですが、加工次第で黒くなりやすい場合も。
- ・ウレタン塗装の器は食材から出た汁が器に染み込みにくいので、日常使いにお勧め。

つけ置き厳禁 カビはやすりで

- ・長時間水につけるのは塗装の種類を問わず避けましょう。つけ置き洗いは厳禁。使い終わったら速やかに洗いましょう。食器用の中性洗剤を使って、柔らかいスポンジや指で優しく洗い、布巾で水分を丁寧にふき取ります。水切りかごなどに立てかけたままにすると、器の下部に水分が溜まり、黒ずみができることもあります。拭いた後は、風通しの良いところでしっかり乾かしてからしましましょう。
- ・使っているうちに器の含水率が上がっていく場合があります。カビの原因にもなります。
- ・表面の乾燥で安心せずに、中まで完全に乾かすことです。
- ・カビはサンドペーパー（紙やすり）でこすって取り除くことができます。「番手」が400番以上の、目が細かいサンドペーパーを選びます。力を入れず、優しくこすります。木目に沿って一方向にかけると、傷が目立ちにくくなります。こすった後は、食品衛生法に適合した「木固め剤」と呼ばれる木工用塗料を使って仕上げましょう。
- ・木の食器は急激な温度変化に弱いので、電子レンジや食洗機には入れないように。冷蔵庫で冷やすのも避けましょう。

和洋問わず料理にマッチ

- ・カレーは油分が染みたり、色移りしたりするので木の器には向いていません。
(2017年4月15日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

木の粉使用の塗り壁材 ヤマガタヤ産業 端材を有効活用

- ・ 木材販売のヤマカタ産業は、木材の粉を材料にした塗り壁材を開発。
 - ・ 木材を粉や粒の状態に加工し、でんぷんのりなど天然素材を混ぜて、壁材としました。
 - ・ 工務店などへの希望販売価格は1kg13,000円。
 - ・ 消臭や湿度の調整、芳香の効果があるといいます。
- (2017年4月3日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

南洋材丸太「ブレトン石」 本来は北米産を想定

- ・ 木材の単位は国や対象の樹種によって異なります。南洋材丸太の取引単位は「ブレトン石」。東南アジアの広葉樹の体積を量る尺度として使います。1ブレトン石は約0.28m³。
 - ・ 日本の商社が輸入する際は、m³で現地の輸出業者と交渉。
 - ・ 南洋材丸太の輸入は減少傾向が続いています。1973年のピーク時には年間約2700m³が輸入されていましたが、2016年は約15万m³と20分の1。
 - ・ 北米産丸太は「スリブナー」で計量。ロシア産北洋材丸太は農林石が使われています。
- (2017年4月18日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

北米産丸太価格 4月積み横ばい 対日、2か月連続

- ・ 北米産丸太の対日輸出価格交渉が2か月連続の据え置きで決着。
 - ・ 2年2か月ぶりの高値水準。米国の戸建て住宅向け需要は好調。
 - ・ 3月以降は海上運賃が上昇しており、日本の商社が値上げに強く反発。現地の木材会社が妥協し据え置きとなりました。
- (2017年4月22日 日本経済新聞記事から抜粋引用)





今月の木の話

年輪年代学（テンドロクロノジー）が語るもの

- ・木は帽子を重ねるようにして成長していくということを、最も端的に示しているのが年輪です。
- ・丸太を輪切りにして年輪を眺めると、その成長過程における、干ばつとか火事に遭ったとかいった気象などの変化がそこから読み取れます。
- ・木は外側から成長しながら上の方へ伸びていくからこそ、木の上の方へ行くと、年輪が少ないわけです。
- ・奈良時代などの古い時代の建築物の木材の年輪を調べることによって、その建築物が何年くらいに造営されたかということを明らかにするために、年輪年代学が使われています。
- ・年輪考古学の根拠は何かと言えば、木はその時々々の気象条件などによって、成長が良くなったり悪くなったりする生き物だから、その痕跡がすべて年輪に現れるものだからです。

（日本林業調査会「木材に強くなる本」より抜粋）

